

下野市

公民館だより

令和元年9月1日発行
第5号

全国公民館研究集会特集号

国分寺公民館	電話	40-5563
石橋公民館	電話	52-1157
南河内公民館	電話	48-2393
南河内東公民館	電話	48-5511

特集

第41回全国公民館研究集会 第59回関東甲信越静公民館研究大会 栃木大会に参加しました

今号は、8月22日（木）、23日（金）の2日間にわたり宇都宮市で開催されました「第41回全国公民館研究集会」兼「第59回関東甲信越静公民館研究大会」の『栃木大会』について、下野市から参加した模様をご報告いたします。

下野市の発表（分科会）

石橋公民館が「地域元気プログラム」 を活用・実践したモデル事業を発表

大会2日目の分科会では、第8分科会 地域課題1（教育分野）において、下野市が事例発表に臨みました。

はじめに、下野市の概要・生涯学習の拠点・公民館での学びについて、幹事館である国分寺公民館の齋藤光利館長が紹介しました。

つづいて、栃木県教育委員会が作成した「地域課題解決型学習プログラム」を活用したモデル事業について、モデル講座を開催した石橋公民館の西本由利子社会教育指導員が報告しました。



このモデル講座は、平成30年11月に地域課題解決型学習講座『考えよう 地域ができる 子育て支援』として開催したもので、運営は生涯学習文化課・公民館・生涯学習情報センター職員や地域教育支援チームひばり、社会教育指導員等が担い、受講者として学校運営協議会委員、地域活動実践者、PTA関係者、青少年育成市民会議、自治会関係者、家庭教育支援関係者、教育委員、社会教育委員、公民館運営審議会委員、市議会議員などが参加する、地域・市民・学校・行政が一体になった実りあるものでした。



チームひばり 水田さん（左）と大古さん

モデル講座の開催には、欠かせない人材がいました。「下野市家庭教育支援チームひばり」の水田あけみさんと大古理恵子さんです。二人は事業の趣旨を理解してくださり、ファシリテーターとして講座を的確に進行してくれました。

分科会を指導助言した文教大学人間科学部人間科学研究科の金藤ふゆ子教授からは、下野市は公民館

振興計画を策定し、計画的に地域課題の学びなどの生涯学習を進めていること、モデル講座を実施する前に担当者等が栃木県のプログラム指導者養成講座を受講していること、地域課題学習の必要性や可能性、今後の講座のあり方等を市内関係組織（生涯学習文化課、各公民館、生涯学習情報センター）で共有していること等が、「社会教育の基盤としたまちづくり」の好事例と考えられるとの高評価をいただきました。



（左から）金藤教授、齋藤館長、西本指導員

発表者 西本社会教育指導員の想い

今回、県の新しい取り組みである「地域課題解決型プログラム」のモデル講座を実施し、またその成果を全国公民館大会で発表した経験は、私の社会教育指導員生活の中で最も勉強となる良い機会をいただけたと感謝しています。当初は大変さばかりを痛感していましたが、それが徐々に自分の栄養に変わってくのを感じました。プログラムを通じ数々の事を学びましたが、最も大きな学びは、この地域課題解決型プログラムが目指す「地域が個人を、個人が地域を育てる」その意義、本質について深く考えることができた事だと思います。

超高齢社会、核家族少子家庭が進むいま、孤独や生きづらさを抱えながら生活する人は老若男女を問わず地域にはたくさんいます。「幸福な生き方」を提案する生涯学習の今後は、母親向け、ご高齢者向け等従来の枠組み型講座の在り方から、もっと大きな視点で心の充足度に目標を向ける転換期に来ていると考えさせられました。また、もう一つ素晴らしい経験ができたと思うことは、講座構築の在り方、進行、発表といった指導員のスキルを学べたことと同時に、一緒に活動してくださった市民の方の無償の協力、県職員の方の丁寧かつ誠実なご指導、そして市生涯学習文化課と市内全公民館の全面的な暖かい協力に触れたことです。この皆さんのいずれか一つが欠けても成功に至れなかったと思います。この多方面に渡るチームワークの素晴らしさは、全国発表時のアドバイザー金藤ふゆ子教授（文教大学）からも会場でお褒めの言葉をいただきました。今後、この経験を市民の皆様を活かせるようさらに努力して参りたいと思います。

最後に、支援くださった全ての皆様、本当にありがとうございました。

大会概要

公民館から発信する地域づくり

下野市からの参加者は、池澤教育長や小林公民館運営審議会委員長をはじめ、公運審委員や社会教育指導員、生涯学習文化課職員、公民館職員です。



●日時・場所

令和元年8月22日（木）～8月23日（金）

- ・全体会 宇都宮市文化会館
- ・分科会 宇都宮市中央生涯学習センター
宇都宮共和大学

●テーマ

『公民館から発信する地域づくり』

～ 地域課題解決を通じた地域コミュニティの活性化を目指して ～

●趣旨

社会教育を取り巻く環境の変化を受け、今後の公民館には、地域コミュニティの維持・活性化に貢献していくことが期待されている。本大会は、学びの成果を地域づくりの実践に結び付けるための公民館の役割やその方策について考える機会とする。

公民館が主役となり、楽しい学びの場を提供し、地域課題解決学習を推進することで、新しい時代に合った地域づくりにつながることを共有し、今後の各地域の公民館活動の充実と発展を図る。

●対象者

全国の公民館職員、公民館運営審議会委員、教育委員会事務局職員、教育委員、社会教育委員、社会教育関係者

●日程

第1日 全体会

- ・開会行事
- ・文部科学省施策説明
- ・基調講演
- ・事例発表
- ・トークセッション

第2日 分科会

- ・分科会（9分科会）
 - 高齢者・シニア ○壮年 ○子ども・若者
 - 学校・家庭・地域の連携 ○地域文化伝承
 - 人権教育 ○公民館の存在意義 ○地域課題1、2
- ・閉会

全体会

基調講演及び事例発表、トークセッション

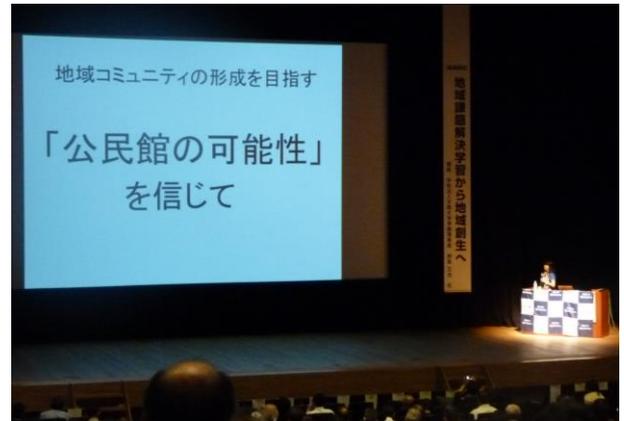
大会初日の全体会は、華やかなオープニングアトラクションで始まりました。氏家公民館で行われた夏休み公民館自由学校の講座の一つである「アイドル養成講座」の修了生であり、ご当地アイドルとして活躍している『ViviD★RinG』と『Lovin&S』です。栃木県の公民館講座の学びの成果の一例として紹介されました。

開会行事では、公民館の歌斉唱や全国公民館連合会表彰式などが行われ、文部科学省の施策説明がありました。最近の動向として、「社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくり」や「地域と学校の連携・協働の推進」などについて説明しました。



基調講演は、『地域課題解決学習から地域創生へ』をテーマに、文教大学学園理事長の野島正也先生が話されました。「つながり」や「地域コミュニティ」について、公民館は地域コミュニティのど真ん中にあること、地域づくりに向けた公民館の課題、地域創生の基本は「人」と「人のつながり」であることなどについて、わかりやすく丁寧にご講話いただきました。

事例発表は、平成 26 年度に文部科学省優良公民館最優秀賞を受賞した広島県大竹市玖波公民館の河内ひとみ公民館主事が、『ひとが変わりまちが変わる 学びのカフェ物語』として、地域のイメージアップを図るため5年前に立ち上げた「おしゃれな学び空間」を作るための事業「学びのカフェ」について発表しました。



地域を知ること→問題点を洗い出す→地域のニーズに合った解決へ とつながる成功事例として、様々なノウハウを伺えました。

トークセッションは、基調講演の野島先生と事例発表の河内公民館主事の二人が、地方創生を公民館から発信する意義などについて意見を交わされました。

参加者全員、貴重な体験となった二日間でした。

「人は城 人は石垣…」実行委員 福島館長

「オール栃木で臨もう」を合言葉に、5月8日に県庁で行われた第1回拡大実行委員会から関ブロ(第41回全国公民館研究集会第59回関東甲信越静公民館研究大会栃木大会)はスタートしました。

今大会8月23日の分科会では、下野市が地域課題1(教育分野)としての事例発表を行いました。内容は、昨年、下都賀教育事務所ふれあい学習課の先生方のご指導のもと行った「地域元気プログラム」の全市的な取り組みについてです。大役を担うのは、国分寺公民館(幹事公民館)齋藤館長と石橋公民館・西本社会教育指導員です。

夏真っ盛りの中、大会の成功目指し、度重なる実行委員会での決定事項を市生涯学習文化課と幹事公民館へと伝えつつ、協力を仰ぎました。実行委員の1人として出来ることは、小さなものです。しかし多くの皆様のご協力があればこそ、今大会の大きな成功へとつながったものと確信しております。

振り返れば、他の実行委員と協力し合いながらスタートをし、分科会での「一人の100歩ではなく、100人が一歩踏み出せるため・・・」との素晴らしいテーマでの発表、大会当日には下野市から数多くのご参加・ご協力を頂いたことなど、感謝の思いでいっぱいです。

今回、関ブロ実行委員として大変貴重な経験をさせて頂きました。ご協力を頂きました皆様に対し「人は城、人は石垣、人は堀」との言葉に代え、深く厚く感謝申し上げる次第です。大変にありがとうございました。